２０１７年6月１２日
第4回 かつらおサークルミーティング

東北大学大学院 農学研究科の取り組みについて

東北大学 大学院農学研究科
東北復興農学センター
Tohoku Agricultural Science Center for Reconstruction
Graduate School of Agricultural Science, Tohoku University

1．これまでの経緯①（葛尾村への訪問ときっかけ）

東北大学

東北大学大学院　農学研究科・農学部
Graduate School of Agricultural Science ・ Faculty of Agriculture, Tohoku University

～津波塩害農地復興のための菜の花プロジェクト～

東北大学大学院農学研究科（東北復興農学センター）では、震災発生後より、**「東北大学菜の花プロジェクト」**を実施してきました。

葛尾村での菜の花栽培について役場の方からアドバイスを求められ、中井教授、大村助教が現地を視察したのがキッカケとなっています。

◀ 積雪をかきわけて確認した菜の花

葛尾村での視察の様子
（2016年 1月）

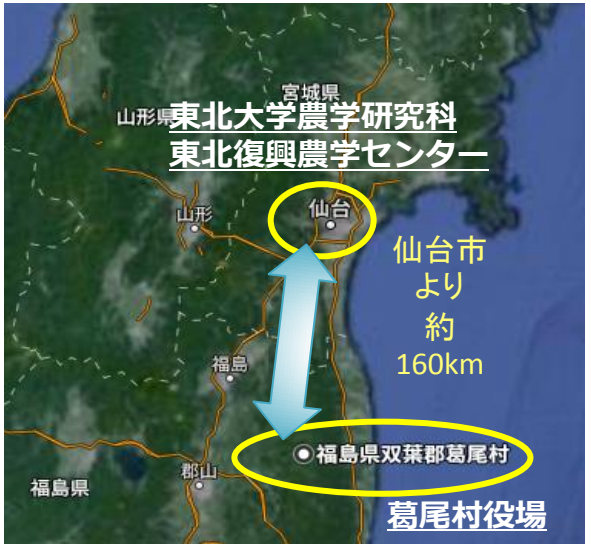
1．これまでの経緯②（協定締結と分室設置）

2016年10月21日、綺麗な秋晴れが広がったなかで、葛尾村と東北大学農学研究科との**連携協定締結式**を行いました。

本協定は、復興へ向けての歩みを加速させるため、共同で人口増加・定住化対策や、地域活性化のための研究等を行い、相互に連携を図るものです。

松本村長と駒井研究科長が
協定書へ署名されました。

東北復興農学センター葛尾村分室の
設置セレモニーも行いました。



また、みどりの里・ふれあい館に**「東北復興農学センター分室」**を設置し、看板の除幕式も行いました（写真中央）。

この看板は、夢工房・葛桜（かつろう）様に製作いただき、松本允秀村長（当時）に筆を入れていただいたオール葛尾村仕様のものです。

誠にありがとうございました。

2．葛尾村での取り組み・進捗①＜取組１について＞

＜はじめに＞東北復興農学センター概要について

被災地の農業・農村の復興を先導する人材育成や、今後懸念される大規模災害などの諸課題を学際的な視点から教育・研究するために2014年4月に設立されました。
とくに、独自のカリキュラムを開講して大学生のみならず、一般社会人を受講生に迎えて教育活動を行っていることは、大学としても非常に珍しいです。

＜取組１＞エクステンション（課外学習）の実施

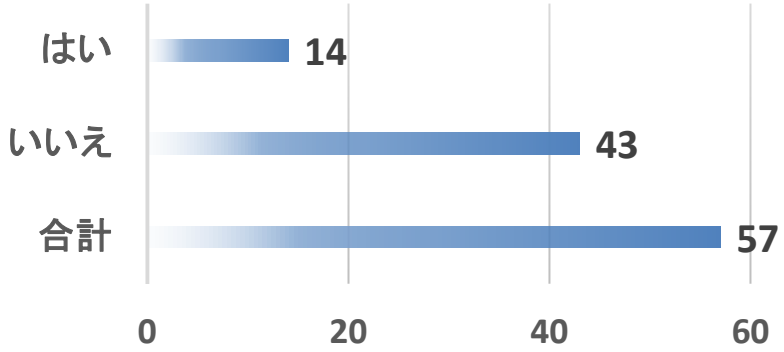
2016年と2017年、2年連続で葛尾村に受講生約70名
（2年間で約140名）が訪問し、住民の方と意見交換をしたり
現場視察をさせていただきました。（写真下：2016年度）

2．葛尾村での取り組み・進捗②＜取組１について＞

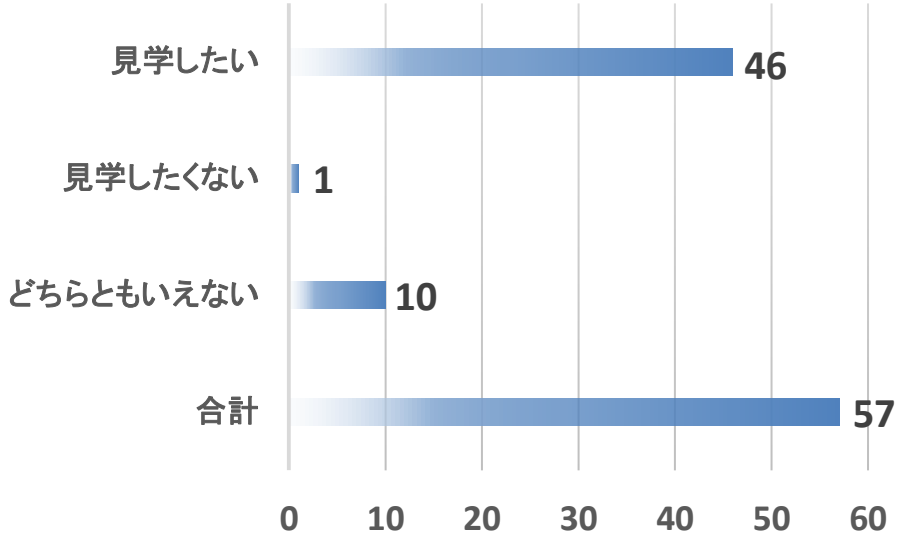
＜現地見学に関するアンケート＞

受講生に葛尾村の認知度・ゲートの見学に関して、事前アンケートを実施しました。

【質問１】
受講前から、葛尾村について知っていましたか？



【質問２】
境界線ゲートを見学してみたいですか？



「見学してみたい」と回答した理由（抜粋）

・実際にゲートを目の前にしてどう思うか想像がつかないから（学生）・実情が実感できる、現状を自らの目で見たい（複数）・ 6年経った今の状況を知りたい（複数）・自分の目で見ることでしか、感じられないことがあるかもしれないから（学生）・東北地方に住んでいたわけではないので、「画面の向こう」状態を脱したいから（学生）・震災ボランティアサークルに所属しており、富岡町に残っている境界線見学を4月に行ったため（学生）・実際に見る機会がないから（学生）・被災地をメディアを通してではなく、自分の目でみたい（多数）

２．葛尾村での取り組み・進捗③＜取組１について＞

東北復興農学センター復興農学講義
葛尾村エクステンション日程表

２０１７年6月１０日（土）
総勢７０名で訪問しました。

１．　**コンセプト**

「被災地のいま」を、身をもって感じること。
地域問題の縮図と向き合い、課題解決策について考え、議論すること。

２．　**スケジュール**

08:10　農学部青葉山キャンパス前集合。
　　6 月 9 日講義でのグループと同一メンバーでバス乗車します。
08:30　出発。
11:00　葛尾村着。
　　12 時まで葛尾村役場職員の方から村に関するレクチャーを受けます。
12:00　昼食。村内「石井食堂」のお弁当。
12:50　市内バス見学。
　　立ち入り制限区域ゲート近くまでバスで移動しつつ見学します。
　　村の住民の方が同乗し、お話ししてくれます。
13:40　村内見学（晴天時徒歩、雨天時はバス）。
　　村内の役場付近を中心に、1 時間半程度、徒歩で散策。
　　散策時に見るべきポイントは来週渡します。
15:10　集合して帰路。
　　帰路のバス車内でグループごとにディスカッション。
17:00　青葉山にて解散。

2．葛尾村での取り組み・進捗④ ＜取組２について＞

＜取組２＞センター受講生の活動　～民泊・グリーンツーリズムの促進など～

交流人口増加のために有効と考えられるアイデアについて、受講生有志の約10名が「モニターツアー」を実施し、検討を行いました。

＜モニターツアーの実施内容（合計３回）＞

- 観光資源の調査、地元NPOとの意見交換
- 宮城県および近隣市町村からのアクセス調査
- 葛尾村をめぐるモデルコースの検討
- 葛尾村の魅力を紹介するオリジナルパンフレット作成
- 民泊体験（葛尾村役場・島係長 宅にて）
- ピザ作り、そば打ち体験

2．葛尾村での取り組み・進捗⑤＜取組２について＞

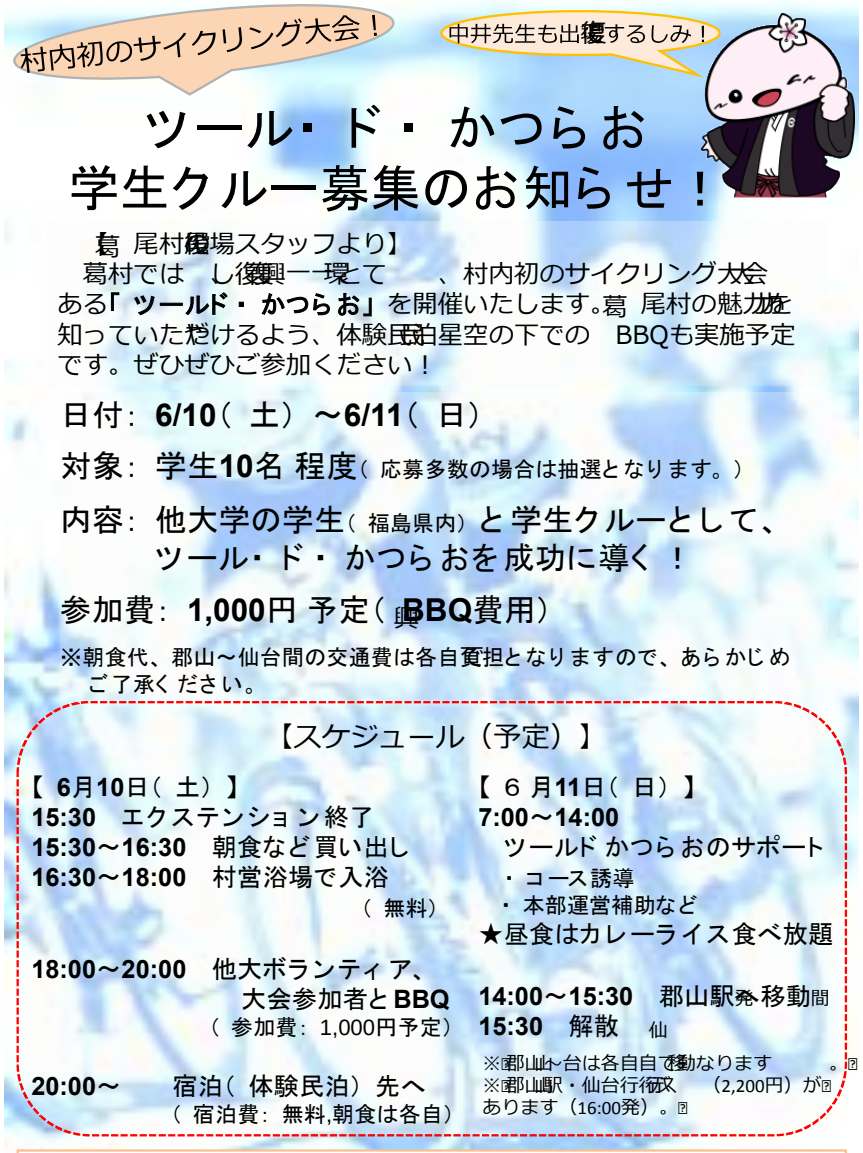
葛尾村の「観光資源」＋「ツアースケジュール案」→　パンフレット作成

　東北復興農学センター受講生のアイデアと、分科会で住民の皆さまに頂いた意見を集約したのち、同センター事務局が中心となって、オリジナルの紹介パンフレット**「葛尾村を知ろう！」**を作成しました（A4・二つ折り）。
　完成したパンフレットは、仙台市内で開催された震災関連の展示会などで配布しました。

おもて面：表紙と観光モデルスケジュール

ウラ面：観光資源マップ

2．葛尾村での取り組み・進捗⑥ <取組２について>



６月11日（日）
ツール・ド・かつらお
ボランティアにも参加しました。

東北復興農学センター受講生12名
（東北大学農学部、経済学部、東北工業大学、一般社会人）

コース誘導や、本部の運営補助を行いました。

2．葛尾村での取り組み・進捗⑦ <取組３について>

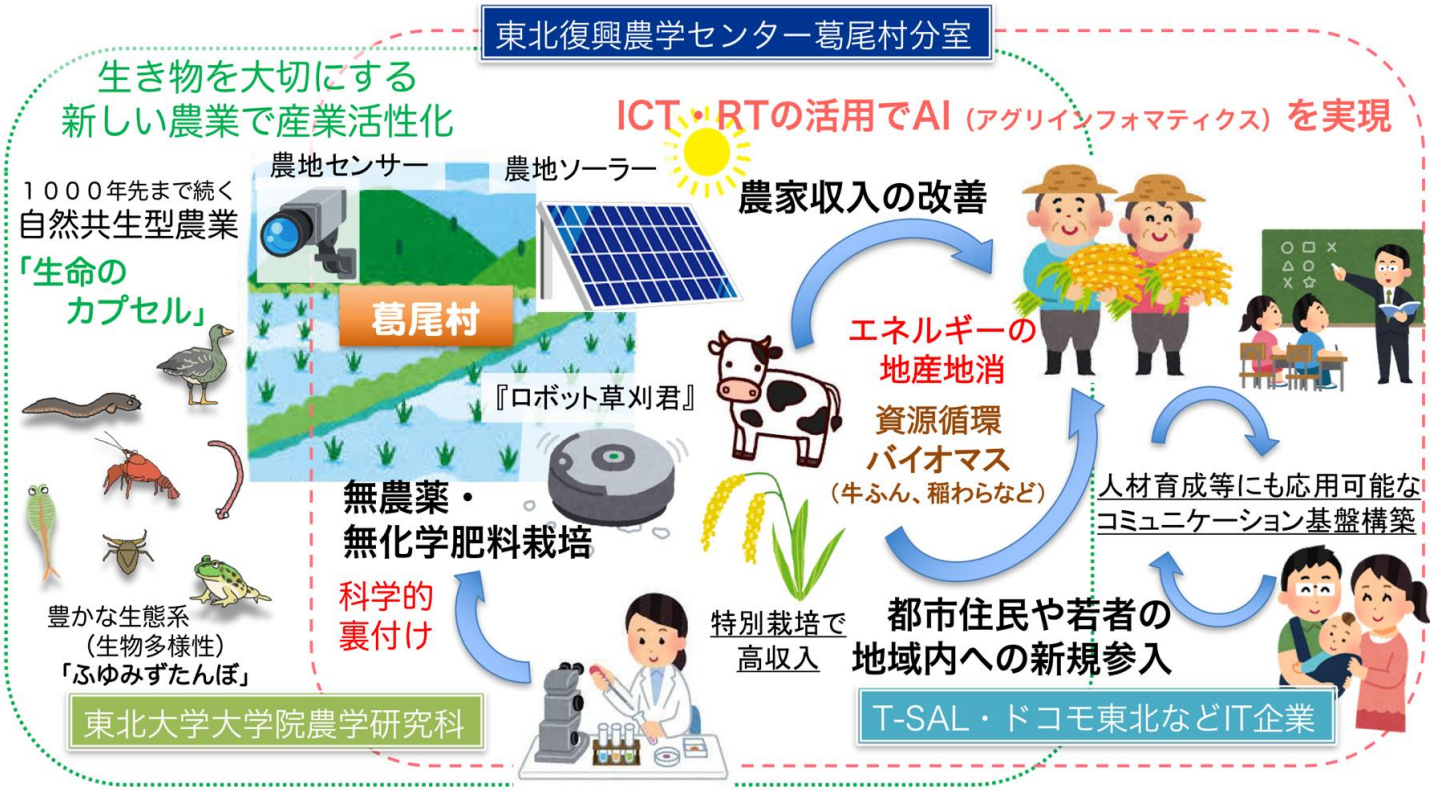
<取組3> 展示圃場・実証圃場におけるイネの栽培試験（イノベーションコースト事業）

平成28年度地域復興実用化開発等促進事業費補助金交付提案

中山間地域の農業振興のための新ICT有機農業の開発

ICT（情報通信技術）を駆使した新しい自然共生型農業（東北大学の科学的知見に基づく）で、生産環境が厳しい地域でも安全・安心な農作物を提供できることを示し、中山間地域を活性化する！

葛尾村に「なりわい」と「にぎわい」を取り戻すために



平成28年度地域復興実用化開発等促進事業費補助金交付提案

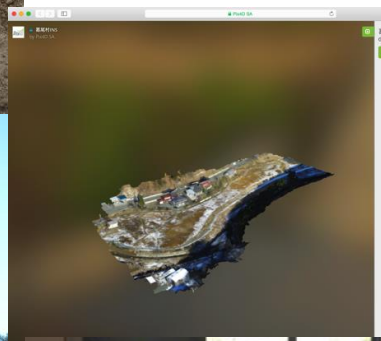
中山間地域の農業振興のための新ICT有機農業の開発

東北大学 大学院農学研究科
東北復興農学センター
Tohoku Agricultural Science Center for Reconstruction
Graduate School of Agricultural Science, Tohoku University

葛尾村圃場へのセンサ類実装と試験的観測を実施

ICTを駆使した新しい有機農業（東北大学の科学的知見に基づく）で、生産環境が厳しい地域でも安全・安心な農作物を提供できることを示し、福島県浜通り**葛尾村**のような中山間地域を活性化する！

東北復興農学センター葛尾村分室の設置・運用



葛尾村村民の方々、農家の皆さんとのミーティング・意見交換

営農再開　獣害対策　新規取り組み

「なりわい」と一体となった営農再開が求められることを改めて認識しました。

2．葛尾村での取り組み・進捗⑧＜取組３について＞

イノベーションコースト事業のコアである、
「いきものを大切にする農業」コンセプトに関する調査実施のため・・・

地元農家の方々といろいろと
相談させていただきました。

そして今、調査へのご協力をいただいております。
今後ともよろしくお願い申し上げます。

2．葛尾村での取り組み・進捗⑨＜取組３について＞

農家石井さんの圃場。生き物を大切にする農法と慣行農法の比較調査を行います。

松本さんの圃場。展示圃場は新規造成のため、生き物調査は村内の既存圃場にて実施します。

2．葛尾村での取り組み・進捗⑩ <取組３について>

東北大展示圃場での活動

（復興交流館 横）

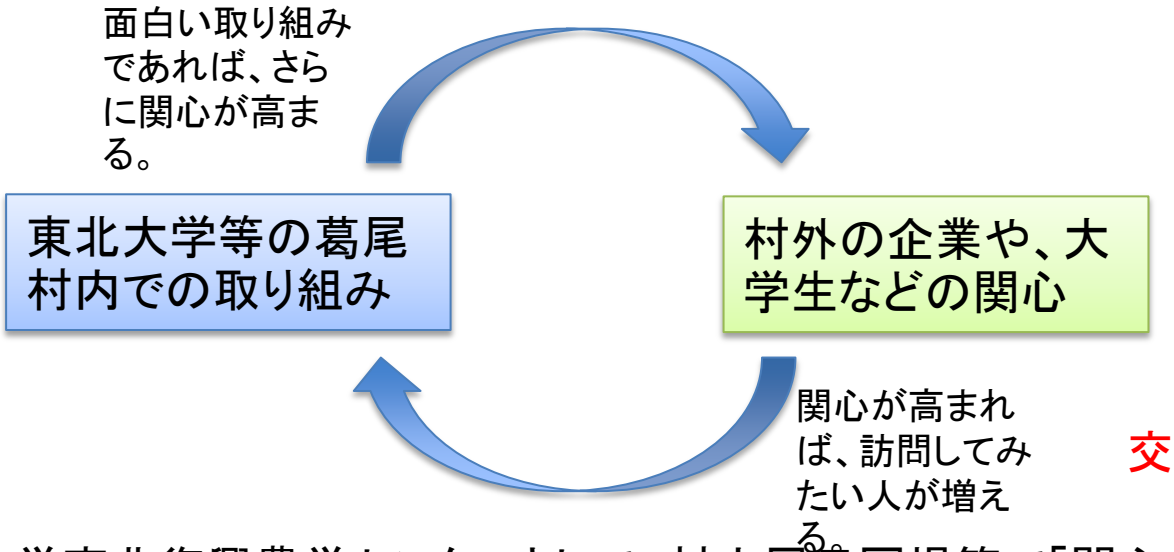
展示圃場では、６月１日（木）に
なんとか田植えまで漕ぎ着けました。

これから面白い取り組みを
発信していきます。

ご協力いただいた
葛尾村村民の皆様

大雨のなか、長い時間
本当にありがとう
ございました。

３．東北大における今後の方針（取組１・２について）



交流人口の増加

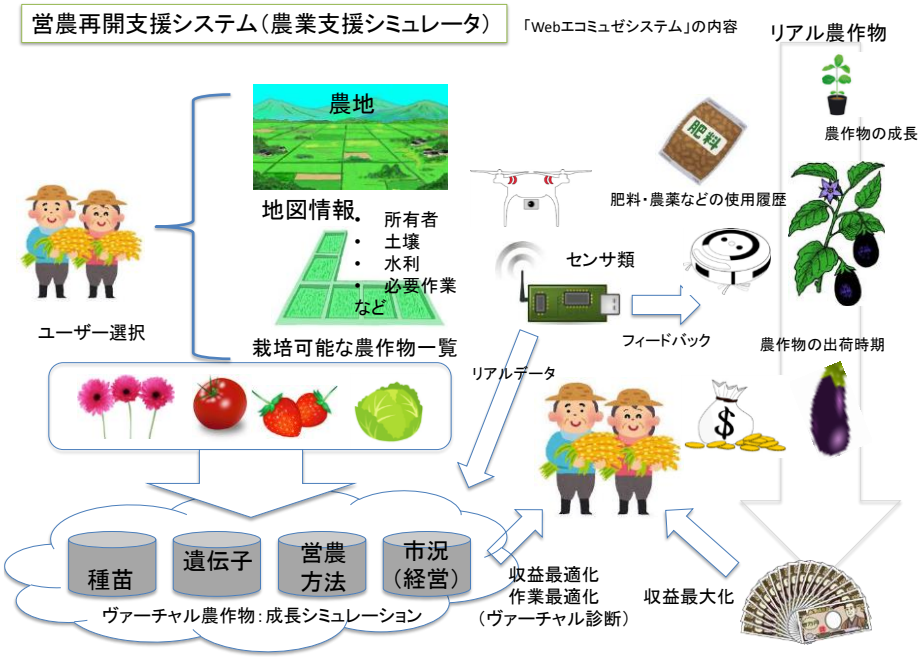
東北大学東北復興農学センターとして、村内展示圃場等で「関心が高まりそうな取り組み」を実施する。
東北復興農学センター受講生等が、葛尾村を題材にしたアイデア出しに取り組む。

その結果、葛尾村に生じるチャンスは・・・

- ✓ センター受講生が考え出したアイデアを葛尾村役場や地元の方々と協力しながら実現に向けて取り組んでいくことができる。
- ✓ 新しい取り組み・既存の観光資源を生かしたツアー等を企画することができるようになる。
- ✓ 村外からの見学者等が「滞留・宿泊したいと思う」機会を捕まえることができる。（→民泊など。）

葛尾村での取り組みは、日本の他地域への試金石として注目されると考えています。

3．東北大における今後の方針（取組３について）



- 地元の農家さんと協力いただき、生き物に優しい栽培方法を実践しながら、生育状況を定期的に調査する。
- イノベーションコースト事業計画に基づいて、展示圃場をメインにICT（あぜ道ソーラーの設置、ドローンによる空撮・データ収集、ネットワークカメラでの遠隔モニタリングシステム、除草ロボットなど）の導入、規模の拡大を行う。
- 上記で得られたデータをもとに営農再開支援システムの構築・運用試験をスタートする。
- これまでの農業・農学の知識を集約（アーカイブ化）して、復興交流館などで情報共有を行えるようにする。
- 展示圃場を学習の場として活用する。

ご静聴、ありがとうございました。